

和ろうソク の生産地だった 杵之峯

上西だより

～上西校区集落支援員だより～

西之表市地域支援課
上西集落支援員
馬場 信一 編集
連絡先090-9579-3953
上西校区長責任発行

杵之峯は、種子島第十九代の島主久基公が産業の振興のために、ハゼ（杵）の木が多いこの地にハゼの実からろうを取り出す精ろう所を建てたことが由来であると伝えられています。

昔の人はハゼの実からどのようにしてろうを作ったのでしょうか。現代の手法を参考に見てみましょう。

※ろうは果皮だけに含まれる。

薄皮↓ 果皮↓ 種子↓



冬になると、校区にはあちこちにぶどうの房のようなハゼの木の实が見られます。（右写真）
私は、ハゼの実からどのようにしてろうを作るのか不思議だったので、調べてみました。

工程は下の写真で！

溶かしてドロドロにしたろうを手でぬりこむ。一本ずつぬっては乾かし、ぬっては乾かしのくり返した。



和ろうそくの
でき上がり。



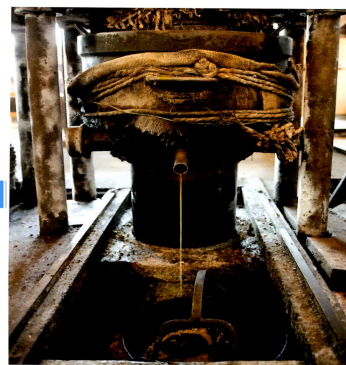
小枝を取りのぞき、
実だけを蒸す。



和紙を筒状にした
ものが芯になる。



ひと皿ずつにろう
を入れて冷やす。



機械で押ししほると
ろうが出てきた。

飢饉や台風、蝗（＝イナゴ）害に天然痘の流行などで困窮している島民の暮らしを豊かにしようと、久基はハゼの実を島外に輸出しました。このような産業活動のなかで、杵之峯でハゼの実の収穫、精ろう作業があったという歴史を知ることができました。

参考資料：『はぜの実から「ろう」をとる』『和ろうそくは、つなぐ』『西之表市年表』